

MINATOビジョン・ウンフォーラム
福祉・保健グループ

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和7年10月20日（月）18時30分～20時30分

会場：リーブラ学習室D

メンバー：8名（欠席者5名）

【内訳】対面参加8名

事務局：企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者2名（うちファシリテーター1名、記録者1名）

■次第

（開会）

1 事務局より連絡

・配布資料の確認等

2 区の将来像のたたき台に関する議論

・分野別の将来像

・区全体の将来像

3 事務局より連絡

・MINATOビジョン・タウンフォーラム報告会について

（閉会）

■配付資料

資料1 第3回グループ会議進行資料

資料2-1 区全体将来像案

資料2-2 分野別将来像案

資料3 MINATOビジョン・タウンフォーラム報告会について

参考資料 会議録

■貸与資料

なし

■会議要旨

(開会)

区の将来像のたたき台に関する議論

(1) 分野別の将来像についてメンバーでイメージの発散を行った。

(主な意見等)

参加者：「尊厳死」が「うれしい姿」にあることについて違和感がある。

参加者：私は逆意見である。死ぬ時も自由に人間としての尊厳を保つことが重要であると考えている。尊厳死も一つの選択肢であるべきと考えている。認知症防止の対策も進めてほしい。

参加者：高齢者の一人暮らしが増えており、死を不安に暮らしている人が多い。尊厳死ではなく、安らかになれる場（ホスピスや病院など）があると良いと考えている。そのような地域になったら良いと考えている。

参加者：尊厳死は「うれしい姿」に入れていても良いと考えている。ただし、尊厳死自体が「うれしい」ではないため、変えたほうが良いかもしれない。

参加者：「うれしい姿」に書くことについて私も違和感がある。

参加者：P4には「介護を志す人材が増えるような就労環境を確保し、希望する誰もが入居できる介護施設を確保することが重要」とあるが、入居でも自宅でも良いというニュアンスに変えたほうがいいのではないかと。自宅も選択肢として確保することが重要であると考えている。

参加者：将来像で「●●になっています」の表現に少し違和感がある。

参加者：「最先端のサポート」とは何かかわからない。「誰一人取り残さない」も表現が変なものではないか。

参加者：「都心ならではの」とは何か不明。「ならではの」が不適切なのではないかと。

参加者：「都心ならではの」とは、都心では田舎とは違ってご近所づきあいが難しくなっているからこそ行政が間に入って支え合いを実現する仕組みと理解している。

参加者：「都心ならではの」よりも、都心の課題に対する対策のニュアンスも入れたほうがいいのではないかと。

参加者：「孤立社会を解決する支え合いの輪ができている」への変更も一案であると考えている。

参加者：「困っている人がいれば声をかける」とあるが、現状として子どもへの声掛けは非常に警戒されており、社会が敏感になりすぎているという課題がある。声をかけやすい環境になると良いと考えている。

参加者：将来像案の文章は良くできており、議論を網羅している。ただし、2025年の区民として読んだ場合、2040年代には本当にこれが出来ているのか、不安に思う。支え合うまちの実現が一番難しいのではないかと。2040年代はもっと個々が別々になっているのではないかと。現実味がない。まとめの妊娠・出産の部分についても同じ

ことが言えると思う（実際には経済的に産む子どもの数が制限されてしまう）。介護施設についても同様（選択肢はどんどんなくなっていくのではないか）。夢のような話となっており、15年後に実現するのが疑問に思う。

参加者：課題を踏まえて理想な将来像の実現を目指すという書きぶりを変えたほうが良いと思われる。

参加者：社会福祉協議会でも「みんながつながり合い支え合うまち」が将来像として掲げられているが、まだ実現ができていない。より具体的な書きぶりが必要と考えている。

参加者：区民の意識が重要であるため、行政ができることが限られている。

参加者：港区（職員）が、困っている人に声をかけている姿を、区民の目に見える場所で率先して見せることが重要と考えている。その点も文章として追加すると良いと思う。

参加者：港区にはケアマネジャーや地域コーディネーターなどが既にいる。そのような人たちにもっと前面に活動してほしい。

参加者：「みんながつながり合い、支え合うまち」は聞きなれた言葉であるため、上記の私たちの視点も追記すると良いと考えている。

参加者：「誰にでも居場所があるまち」と「みんながつながり合い、支え合うまち」の介護サービスに関する部分が重複しているため、合わせて一つの項目にしたほうが良いのではないかと。

参加者：将来像には現実味がないが、実現できたら理想とは考えている。

参加者：「身体に向き合い、健やかに暮らすまち」における「治療方法など多様な選択肢の中から、自分の希望に合った医療サービスを受けることができる」の部分に違和感がある。既にそうなっているのではないかと。

参加者：現在既にそうなっているため、「引き続きできている」「維持できている」などとすると良いと考えている。

参加者：「誰にでも居場所があるまち」に性に関することも入れてもいいのではないかと。例えば、本人が自認する性別の施設への入居について、問題が解決されている社会、性的マイノリティが敵対視されていない社会が実現している、など。

参加者：私はその追加に反対である。既に「誰にでも」となっているため、性別について特別に文章化せずに、各施設に任せると良いと考えている。

参加者：もし書くとしたら「社会的弱者」や「マイノリティ」の表現が良いと思われる。

参加者：「多様性を受け入れられるマインドを持った区民にあふれるまち」の表現も一案である。

参加者：「多様性」という言葉にも違和感がある。書かなくても当たり前なことは書かなくても良いと思っている。「誰にでも」という表現のままでいいのではないかと考えている。

(2) 区全体の将来像についてメンバーでイメージの発散を行った。

(主な意見等)

参加者：「港区のこれまで」の内容が、ワークショップの検討内容を踏まえて良いところだけとなっている。ワークショップでは課題などについて検討していないため、資料は良いところだけ載せていることを明確にすると良いのではないかな。

参加者：理想的な内容となっている。将来像としてふさわしいと考えている。

参加者：「地域から世界へ広がるまち」における「互いに助け合い、支え合う」の部分について、以前のワークショップでも議論があったとおり、血縁よりも地縁を大事にすることも重要だと思う。地域とのコミュニティに関わりやすい環境を作ることが重要。(例：運動会が親族のみ参加可となっているという課題がある)。

参加者：文章では現状としてある壁なども言及し、具体的にイメージができるように修正できると良い。

参加者：文章としては良いが、胸に刺さる部分がない。

参加者：ビジョンを基にどのような行政に落としていくのかが不明瞭となっている。きれいすぎるのではないかな。ビジョンを基に何が始まるのかについてもっと知りたい。

参加者：文章は提案のとおりで問題ないと考えている。ただし、どのように形になっていくのかが不明瞭であり、具体例がない。

参加者：「想いを一つにすることが不可欠」と書いてあるが、想いが3つあるのに、1つに集約する必要があるという意味か。「想いを一つに」よりいい表現があるのではないかな。「一眼となって」などはどうか。その文章は不要なのではないかな。

参加者：港区が何を旗印に未来へ進むのかを明確にすると良い。

参加者：「一見、相反するよう見えるものでも」とあるが、具体的に何が相反しているのかが不明瞭である。わかりやすくしたほうがいいのではないかな。

参加者：考えた経緯が不明瞭であり分かりにくくなっている。

参加者：「多様な価値観を認め合う」の文章の内容が価値観になっていない。「多様な価値観を認め合う」と「一人ひとりの幸せを願う」のタイトルを入れ替えたほうがいいのではないかな。

参加者：「相反するもの」とは様々な区民(大学、自治会など)の意見を指しているのではないかな。

参加者：「地域の可能性を生かす」における「地域に想いを馳せる」の部分は不要なのではないかな。

参加者：「想いを馳せる」の部分は「シビック・プライド」(区への愛着)を意味しているのではないかな。

参加者：区として今後何を守っていきたいのかが不明瞭となっている。

参加者：全体的に抽象的すぎると思う。

(閉会)